

会 議 録

| | | | |
|------------------------|--|------|----|
| 会 議 名 | 令和4年度第1回小金井市芸術文化振興計画推進委員会 | | |
| 事 務 局 | 市民部 コミュニティ文化課 | | |
| 開 催 日 時 | 令和4年9月14日(水) 18時00分～19時30分 | | |
| 開 催 場 所 | 小金井市役所第二庁舎602会議室(基本はオンライン参加) | | |
| 出 席 委 員 | 戸舘正史 委員長 田中真実 副委員長 小林 勉 委員 水津由紀 委員 三浦香里 委員 西村徳行 委員 足立優司 委員 福沢政雄 委員 中原和樹 委員 | | |
| 欠 席 委 員 | な し | | |
| 事 務 局 員 | 1 小金井市 コミュニティ文化課長 コミュニティ文化課 コミュニティ文化課 コミュニティ文化課 2 事業実施者 特定非営利活動法人アートフル・アクション 宮下美穂 石井 伊藤 | | |
| 傍 聴 の 可 否 | 可 | | |
| 傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由 | | 傍聴者数 | 0人 |
| 会 議 次 第 | 1 委嘱状交付 2 委員会創設の経緯 3 自己紹介 4 委員長・副委員長互選 5 トークタイム (1) テーマ①「芸文計画って？市民の役割は何？」 市からの話題提供：フォーラム (2) テーマ②「事業報告をきいてひとこと」 | | |

| | |
|---------|---------------------------------|
| | 実施事業者からの話題提供：令和3年度事業報告 6 その他 |
| 会 議 結 果 | 別紙のとおり |
| 会 議 要 旨 | 別紙のとおり |
| 提 出 資 料 | |

1 委嘱状の交付

小金井市芸術文化振興計画推進委員の委嘱について、委員9名に委嘱状の交付を行う。

2 委員会創設の経緯について

コミュニティ文化課より委員会創設の経緯について説明。内容の要旨は以下の通り。

- ・本委員会は、小金井市芸術文化振興条例に所掌事項として、「委員会は、芸術文化の推進に係る調査検討による提言、基本計画の評価及び見直し等を行うものとする」とあること。

- ・委員会として、市の文化施策に対しての提言や、計画の評価や見直しについてご意見をいただくこと。

- ・小金井市の芸術文化振興計画の特徴は、定量的な指標を設けず、定性的な目標を掲げており、これは、芸術文化施策の効果が、数字だけでははかれないという部分があることを加味していること。

- ・委員会では、委員会や市、事業の実施者、市民の方とともに、この計画の定性的な目的に向かって進んでいくためにどうしたらいいかという視点で、ご意見をいただきたいこと。

3 自己紹介

委員、事務局、アドバイザーの自己紹介を行った。

4 委員長・副委員長の互選

推薦により、委員長に戸舘正史氏、副委員長に田中真実氏が就任した。

5 トークタイム

事務局より今年度開催する芸術文化振興計画推進フォーラムの概要説明を行った。今年のフォーラムに定められたテーマについて、本委員会でも取り上げ、テーマ①「芸文計画って？市民の役割は何？」として各委員から意見を伺った。意見の要旨は以下の通り。

・計画の第3章「本計画の考え方」のところに、「協働」とある。コラボレーションを進めるにあたって、参加とつなぎ手がとても大切だとすごく強調して書かれているが、様々な課題と、そこに対峙する市民をつなげる「つなぎ手」、つまり「コーディネーター」をどういうふうに育てていくかが計画の課題だと感じるという意見。

・市民で芸術文化活動をしている団体は大小たくさんいる。そういう人々が情報を手に取りやすい状況、団体同士が連絡を取り合ったりするようなネットワークみたいなものが構築できると、つなぎ手・コーディネーターの育成・種まきにつながるのではという意見。

・芸術文化の中でトライ・アンド・エラーというのを言えるのは、とても大事なこと。芸術文化のなかで、成功や目標を据えてしまうと取りこぼしてしまうものがたくさんあるという意見。

次に、オブザーバーとして参加している芸術文化振興計画計画推進事業の委託事業者から事業報告をきいて、テーマトーク②「事業報告をきいてひとこと」として、委員の立場から感想やご意見を伺った。

意見の要旨は以下の通り。

・まずは市民にどんなものがあるか知ってもらうことが大事。市内の公立文化施設や芸術文化振興計画推進事業もまだまだ知られていない。

・公共施設側はトライ・アンド・エラーという自由な発想でいられない部分もある。だからこそ「どうい結果が出るのか分からないけど、やってみよう」という感覚だと連携が難しい場合もある。それでも何がしかの事業を組んでいて、それによって、市内の文化施設の連携で、まちづくりに何らかの貢献をする、成果を出すことで次につながっていくと感じるという意見。

・種をまいて、木を育てることを市民ややりたい人が、すぐ手軽にできるようにするためには、土壌が必要。その土とは、人と場所と財源。花を育てる事業をしても、土壌は育たない。どうやったら、いろんな人が手軽に種をまきたくなるかという、もっと大きい目線の活動、事業をしていくのが、この小金井市芸術文化振興計画の肝だと思うという意見。

・本来、文化の目指すものというのは、人が元気になったり、生き方が豊かになったり、それから楽しくなったりという部分。そこに到達するために何が問題点か、という視点から具体的に事業を考える必要があるのではという意見。

6 その他

次回の委員会を秋に開催することとした。